



北朝鮮 巨弾着弾

北海道の西海域が

【ソウル共同】北朝鮮は18日午前10時14分ごろ、日本海に向けて大陸間弾道ミサイル(ICBM)級の弾道ミサイル1発を発射した。防衛省が発表した。岸田文雄首相は北海道西側の日本の排他的経済水域(EEZ)内に着弾したとみられると述べた。被害情報はない。韓国軍によると平壤の順安付近から発射された。

北朝鮮は、米本土を狙うICBMの技術向上を図るとともに、連携を強める日米韓3カ国に対抗する狙いがあるとみられる。ミサイルは約1時間飛行、意図的に高い角度で打ち上げるロケット軌道を使ったとみられる。

海上保安庁はこれに先立ち、ミサイルは同日11時20分ごろ、北海道渡島大島の西約210キロの周辺海域に落下する見込みだと発表した。

岸田氏は訪問先のタイで、北朝鮮の弾道ミサイルに関して、北朝鮮に抗議したと明らかにした。相次ぐ弾道ミサイル発射を「断じて容認できない」と非難した。

米国は13日の日米韓首脳会議で日韓への拡大抑止強化を表明。これに対し、北朝鮮の崔善姫外相は17日に発表した談話で、米国が拡大抑止強化に執着すれば「正比例してわれわれの軍事的対応は一層猛烈になる」とけん制していた。

北朝鮮は17日にも、東部江原道元山付近から日本海に短距離弾道ミサイル1発を発射。約240キロ飛行し、日本のEEZ外に落下した。

北朝鮮は3日、ICBMを発射、最高高度約2千キロで約750キロ飛行した。韓国軍は新型の「火星17」が正常な飛行に失敗したとの見方を示していた。



新型大陸間弾道ミサイル(ICBM)「火星17」の発射実験。3月25日付の北朝鮮の労働新聞が掲載した。平壤(コリアメディア提供・共同)



18日 ICBM級弾道ミサイル発射
■排他的経済水域(EEZ)
※日本政府、韓国軍による。
方向はイメージ